

淡江大學 109 學年度進修學士班寒假轉學生招生考試試題

系別： 日本語文學系三年級

科目： 中級日語及語法

2-2

考試日期：1月18日(星期一) 第1節

本試題共 四 大題， 2 頁

本試題雙面印刷

一、閱讀綜合題：(40%) 選出正確選項，填入代號，單選。

訳者の註 (1) (a. に際して b. によると c. に応じて)、日本 (2) (a. には b. とは c. では) 敬語が多く (3) 用いられる (読みは：a. もちいられる b. ようじいられる c. よじいられる) が、当時、すなわち (4) 安土・桃山 (読みは：a. あんど・とうさん b. あづち・ももやま c. あんづち・ももやま) 時代は (5) とりわけ (意味は：a. ぜんぜんちがって b. はっきりとわかって c. とくに) 複雑な敬語法が発達した時代で、その敬語とは、直接的で明確な言い方を避け、間接的で断定しない表現がとられている、それ (6) (a. で b. を c. に) 指したものとされている。しかし、ふりかえってみると、日本人のあいまいな語法は、たんに敬語の場合だけではなく、いま (7) (a. によっても b. にとっても c. においても) 一般の会話や文章に数多く使われている。フロイスの指摘は今日の日本語にも十分通用するのである。

たとえば「よろしく」という言葉である。日本人はいたるところで「よろしく」を連発する。年賀状にはきまって、「(8) 本年 (読みは：a. ほんとし b. ことし c. ほんねん) もどうぞよろしく」(9) (a. と b. に c. で) 書き、知人に何か依頼する時にも、「よろしく」といって頼む。慣用語、あるいは挨拶語だといって聞き流せばそれまでだが、そういわれて誠実に相手の依頼にこたえようとすると、「よろしく」の意味がわからなくなる。「よろしく」というのは、「よろしく心を配って欲しい」ということであろう。(中略)

「よろしく」とは、前記のように、いっさいの判断を相手 (10) (a. で b. を c. に) ゆだねた依頼の言葉である。だが、もしもその相手が自分とまったく (11) 異なる (読みは：a. いなる b. ことなる c. ものなる) 情報環境の住人——習慣や、ものの考え方を異にする世界の間人であったならば、こんなふうに相手の判断に任せるわけにゆくまい。どのような処置をされるか見当がつかないからである。だから「よろしく」は外国人 (12) (a. にとって b. に対して c. として) は使えない。いや、おなじ日本人同士であっても、相手が異国にいるような場合には、“神通力”を失ってしまうのだ。げんに私は「よろしく」(13) (a. と b. に c. が) 頼まれて大いにとまどい、思い悩んだ経験がある。

パリ (14) (a. で b. を c. に) 半年ほど滞在していた時のことだ。「ぼくの知人の某氏がパリへ行く。よろしく」という手紙を友人から受け取ったのである。私の友人は (15) 気軽 (読みは：a. きかる b. きがる c. きけい) にそう書いてよこしたのだが、いったい「よろしく」とは何を要求しているのか、こちら (16) (a. に b. と c. して) は (17) (a. ざっくり b. さっぱり c. あっさり) 見当がつかない。空港まで出迎えて欲しい、というのか、ホテルを (18) (a. 買って b. 住んで c. とって) おいてもらいたい、というのか、パリを案内してやってくれ、というのか、一度ぐらい食事を共にしてもらえまいか、というのか。私はさんざん思い悩んだすえ、具体的な依頼がない (19) (a. うちに b. がてら c. かぎり)、何もしないことにした。そのような判断までこちらにさせるというのは——冗談ではない、あまりにも甘えすぎであり、(20) (a. 虫 b. 鳥 c. 馬) がよすぎる、と思ったからだ。

(森本哲郎『日本語 表と裏』新潮文庫)

背面尚有試題

淡江大學 109 學年度進修學士班寒假轉學生招生考試試題

系別： 日本語文學系三年級

科目： 中級日語及語法

2-2

考試日期：1月18日(星期一) 第1節

本試題共 四 大題， 2 頁

二、句型：(20%) 填入正確型態。無須標註假名；僅寫出下線答案部分，勿整句抄寫。

- (1) 台湾は_____たびに被害を受けている。(台風だ)
- (2) 台湾の人口は_____つつある。(減少する)
- (3) _____次第で人生は変わる。(努力する)
- (4) 今日はどうも_____ぎみで、調子が悪い。(風邪だ)
- (5) 彼はお酒が_____くせに、人前では飲まない。(好きだ)
- (6) 休みなのに、_____ほどの宿題を出された。(山だ)
- (7) この車は_____以来、すごい人気だ。(発売する)
- (8) あのレストランは_____だけあって、本当においしい。(有名だ)
- (9) 雨の_____、テストが中止になった。(おかげだ)
- (10) 私は_____っぽいから、メモしておきましょう。(忘れる)

三、慣用句：(20%) 從下方選出正確選項，填入代號，未使用代號不予計分。選項可重複使用。

a. 額 b. 顔 c. 頭 d. 目 e. 涙 f. のど g. あご h. 口 i. 鼻 j. 手 k. 骨 l. 足

- (1) 量が少ないこと。→雀の_____。
- (2) 非常に苦勞をする。→_____が折れる。
- (3) ほしくてたまらない様子。→_____から手が出る。
- (4) 場所がとても狭いこと。→猫の_____。
- (5) 恥をかかせる。→_____に泥を塗る。
- (6) 言っではならないことをべらべらしゃべる。→_____が軽い。
- (7) しっかり覚えておく。→_____に入れる。
- (8) 傲慢な態度で人をつかう。→_____で使う。
- (9) 手伝う。→_____を貸す。
- (10) 出席する。姿を現す。→_____を出す。

四、改錯：(20%) 整句抄寫(無須標註假名)後，在錯處劃下線，並寫出該處正確表現。未完整標示或標示不清者，該題不予計分。每題僅有一個錯處。

- (1) 昨日のパーティーには多い人が集まった。
- (2) 来週、国から友だちが来て嬉しい。
- (3) 電池がないので、この時計は動けない。
- (4) 仕事が忙しくて彼氏に会えないようになった。